

古事記を読む会 2015年1月25日 NO.8

1 2月7日（日）午前10時から第8回古事記を読む会が開かれた。雪が早く積もり、庭からの雪景色がきれいだった。参加者は8名。今回、近藤氏が都合により欠席。それでも何とか実施した。

◎景行紀

- ・ヲウスによる征西、東征物語の中で様々なヲウス像を描いている。
- ・一人の英雄譚では無く、いろいろな伝承を構成したのかも？

1 月朗読分 概略

◎成務紀

- ・物語の記述は無い 系譜が主 実在の可能性が高い崇神天皇以降でその宮を三輪山麓以外に求めた初めての天皇。

◎仲哀紀

- ・父（ヤマトタケル）が天皇で無かった初めての皇位継承者である
- ・熊襲征伐で筑紫に出向いた時、妃のオキナガラシヒメに神が憑き『西方の国を帰服させよ』と告げたが天皇はそれを疑ったので神の怒りを得て命を落とす事になる。
- ・『その国を統治するのは妃のお腹にいる子である』との神託を請けたオキナガラシヒメは新羅親征に向かう。
- ・帰国後オキナガラシヒメから応神天皇が生まれたが、異母兄たちとの間で皇位を争う事となる。

◎応神紀

- ・天皇は皇子のオオヤマモリとオオサザキに『年長と年少ではどちらが愛しいか？』と問うたが、年かさのオオヤマモリは『年長』と答え、オオサザキは応神の心中は幼子のウジノワキイラツコにあることを察して『年少』と答える。
- ・ウジノワキイラツコの母との出会いや、息子のオオサザキに自分が見初めた女性を譲る譚などが続く
- ・治世中に渡来人が様々な技術を持ってきた様子が語られる。
- ・天皇はウジノワキイラツコを後継者に指名するが、天皇没後、年かさのオオヤマモリは天皇の遺命を不服としウジノワキイラツコやオオサザキたちと皇位継承を争う。
- ・オオヤマモリを破った後、後継者に指名されていたウジノワキイラツコは自分より兄のオオサザキが大君に相応しいとして皇位を譲ろうとしたが、オオサザキはそれを断りその後互いに譲り合いを続け周囲を困らせた。
- ・そんな中、ウジノワキイラツコが突然亡くなってしまい、止む無くオオサザキが即位する。
- ・アメノヒボコ伝説が突如として挿入され、更にその後何の命脈も無いような（？）兄弟神が一人の女性を巡って争う話が続く。
(以上近藤さんメモより)